

令和5年度 第1回苫小牧市スポーツ推進審議会結果報告書

【日時】 令和5年11月2日（木）18時00分～19時20分

【場所】 市役所5階 第2応接室

【出席】

▽苫小牧市スポーツ推進審議会委員 8名（12名中）

澤井委員、鈴木委員、中田委員、中村（峰）委員、藤岡委員、本間委員、米山委員、林崎委員

▼事務局（市）

- ・岩倉市長
- ・総合政策部：町田部長、柴田参与
- ・スポーツ都市推進課：畠山課長、梶田課長補佐、奥井主査、寛那見主査、丸谷主事、石山主事、石川主事、寺谷主事、大上主事

～～～議事内容（審議経過・意見・質問等）～～～

- 1 開会
- 2 委嘱状交付
- 3 市長挨拶
- 4 委員及び職員自己紹介
- 5 会長・副会長の選出
本間会長、中村（峰）副会長を選出
- 6 議事（進行：本間会長）

以下の質疑・意見については、▽は委員発言、▼は事務局発言

- (1) 苫小牧市スポーツ推進審議会の概要について 【資料1】
※ 事務局から説明
- (2) 苫小牧市スポーツ推進計画について 【資料2】
※ 事務局から説明
- (3) 苫小牧市スポーツ施設整備計画について 【資料3-1】
矢代スポーツセンター改修及び利用状況について 【資料3-2】
※ 事務局から説明

▽本間会長

総合体育館の整備については、資材高騰や場所の選定などの問題もあると思うが、建替え以外の考えもあるのか。

▼島山課長

総合体育館以外の公共施設整備もあるため、資材物価など財政状況を見極めながら整備の方向性を考えていく。

▼柴田参与

総合体育館については老朽化のため建替えの方向で考えている。

場所については、スポーツ施設を集約するという点では緑ヶ丘公園。

本市のまちづくりの活性化という点では、駅前周辺も候補の一つ。

また、現総合体育館に隣接させるということも一つの可能性として様々な比較検討を行っている。

4年程前に建設した帯広市の体育館が、当時62億円だったが、昨今の建設費、物価高騰により、今の建設費を単純計算すると、現時点で90億円程度の試算。

更に5年後10年後の建設となると、どこまで高騰するか予想ができないが、それらを踏まえ、今年度中に市の方向性を固めたいと思う。

審議会のほか、利用者、議会等でも意見を聞きながら、今後どうするか議論していきたい。

▽本間会長

建設用地以外にも各施設で問題なのが駐車場。駐車場の確保も踏まえて場所の選定をしていくのか。

▼柴田参与

駐車場も、どの程度の確保が必要なのか検討していく。

▽中村（峰）副会長

以前もお話をさせていただいたが、とある自治体で総合体育館を建設したが、種目によっては公式試合ができない規格だった、というケースを聞いたことがある。その辺りのこともしっかりと検討していただきたい。

また、全国大会等の開催も踏まえると、宿泊ホテルとの関係も考えなければならない。

▼島山課長

総合体育館の建設については、公式競技ができる施設という点を踏まえ検討している。また、本市は胆振地区の拠点ということで、管内の全道大会を多く開催しているが、今後も多くの大会を誘致できるよう検討していきたい。

宿泊施設は、近年不足している状況にある中、旧サイクリングターミナルが再稼働した。他の自治体でも宿泊施設が不足しているようだが、今後関係部署と相談していきたい。

▼柴田参与

行政として宿泊施設の誘致は、難しいところである。

インターハイと氷上の甲子園は通常であれば同時期での開催となる予定だったが、その場合、せっかく来苦していただいた選手が本市に泊まれないという状況になることから、今回は、日程をずらすなどして開催をした。

来年の国民スポーツ大会に関しても、大勢の選手が来苦する。日程としてはスピード・ショートトラック・フィギュア競技が先に開催され、その後にアイスホッケー。この場合、先に開催されている競技選手は本市で宿泊し、後半競技のアイスホッケー選手は、1～2回戦時は、登別、千歳に宿泊となるが、フィギュア競技等が終了すれば、本市で宿泊をしてもらえないか検討している。なかなか宿泊施設を増やすということは難しいが、工夫をしながら大会運営を考えている。

▽中田委員

知人の娘が、今回、本市で開催されたインターハイに出場したのだが、市内の宿泊施設がほぼ満杯で、僅かに空き室があっても非常に高額だったと言っていた。知人は札幌在住なので、日帰りで大会に来ていたのだが、全国から多くの方が集まることから、なんとかならないものかと話していた。

▼柴田参与

おっしゃる通り選手の家族も、本市に泊まるのが一番なのだが、インターハイとなると選手だけでも相当の人数。選手ですら、本市に泊まるのが厳しい状況。

また、料金が安いというのは、本市だけではなく、他都市も同様の問題。行政としての対応は難しいが、宿泊業者と協議しながら調整していきたいと考えている。

- | | |
|----------------------------|---------|
| (4) 苫小牧市スポーツ施策事業について | 【資料4-1】 |
| No.9 青少年スポーツ振興事業 | 【資料4-2】 |
| No.24 令和5年度全国高等学校総合体育大会の開催 | 【資料4-3】 |
| No.25 第78回国民スポーツ大会冬季大会の開催 | 【資料4-4】 |
| No.26 スポーツ合宿等助成 | 【資料4-5】 |
| No.27 スポーツ合宿の誘致活動 | |
| No.44 パラスポーツ体験会 | 【資料4-6】 |

※ 事務局から説明

▽本間会長

青少年スポーツ振興事業に関しては、少年団活動を活性化し、競技人口を増やすことを目的としている。米山委員は、元々アイスホッケー競技者として活躍されていたが、この事業に関連して、競技を始めたきっかけや競技人口拡大に向けて思うことがあれば、意見をいただきたい。

▽米山委員

兄弟がアイスホッケーを始めていたのがきっかけ。苫小牧でスケート教室を体験したこともあったが、体験する機会が大切だと考えている。また、アイスホッケーを始めるにあたっては、防具の調達がかなりネックになってくると思う。それに関しては、リサイクルなどを使用して繋げていくことが、始めることへのステップの一つとして大切になってくると思う。

▽本間会長

きっかけや環境づくりに関してだが、スポーツ協会の「スケートエンジョイスクール」では、使用したアイスホッケー用具をスクール受講者に安く販売し、小学生になっても続けていけるような取組みを行っている。その中で、アイスホッケーの面白さを感じながら、更に継続して取り組んでもらいたいと考えている。

少子化、各種スポーツ人口の減少、そのような中でも競技を継続してもらえようと思うと思っている。

▽本間会長

36年ぶりの北海道開催となったインターハイ。大変暑い中、中村委員は、スポーツ推進委員として協力されていたが、会場の雰囲気を感じたことがあれば、意見をいただきたい。

▽中村（峰）副会長

私は駐車場を担当していた。

選手の祖父母等も多く会場に来られていたが、せっかく苫小牧に来たのに、観光場所等を聞かれて困ったところ。苫小牧の観光地が、なかなか出てこなく、市民として残念な気持ちになった。名物や推せるものがあると良いと感じた。

運営については、熱中症による救急搬送もあったが、基本的には支障なく大会は進んだと感じている。

▽本間会長

1年前からの準備で、大変だったと思うが、大きな事故なく終えたことは非常に良かったと感じている。

▽本間会長

国民スポーツ大会苫小牧開催は18年振りとなるが、苫小牧アイスホッケー連盟としての準備状況を藤岡委員にお聞きしたい。

▽藤岡委員

しばらく振りの開催ということで事務局の方に色々相談しているところ。これだけ多くの選手が来る大会はなかなか無い。相当数の役員が必要なので、苫小牧アイスホッケー連盟のほかに、様々な関係者にもお願いし運営体制を整えている段階。

アイスホッケーのレフェリーに関しては、苫小牧だけでは足りないことから、道外にも依頼をしている。ただ、全国的にレフェリーも少ない状況。

医師会等も含めて、色々とバックアップ体制が大会には必要となってくるため、事務局と打ち合わせをしながら進めていきたい。

▽本間会長

中村委員の方から、苫小牧の観光的なものがないとのことだったが、観光協会としては。

▽林崎委員

事務局の方から指定された場所にブースを出すことになっている。

▽本間会長

苫小牧をPRする絶好の機会なので、事務局と連携しながら大会を盛り上げて欲しいと思う。

▽本間会長

苫小牧は、多くの合宿や大会が開催されているが、本市のスポーツに関する取り組み状況等について、中田委員の方で感じたことがあれば意見をいただきたい。

▽中田委員

宿泊施設に関してのことになるが、古民家など空き家になっているところを有効利用して民泊ができないか。改修して、一棟貸しにするなど。古民家がかなりあるようなので、今後の国民スポーツ大会の宿泊等を踏まえながらであるが。

▼柴田参与

古民家に関しての情報は把握しておらず、国民スポーツ大会に活用できるかというところまでは検討していない。

▽中田委員

普段も夏合宿等で多くの方が苫小牧を利用されている。環境が良いので。

私が中学生の頃、帯広では3,000円程度で宿泊できる施設があった。苫小牧もあれば、と過去に話したことがあった。

▼柴田参与

先ほど課長から答弁したが、旧サイクリングターミナルが「緑ヶ丘トマロ」として民間事業者によって再稼働し、合宿団体が安く宿泊できるなど、現在、このような取り組みや工夫を始めている。古民家の活用についても、今後、検討はして

みたいと思う。

▽鈴木委員

スポーツ合宿、大会の誘致に関してだが、補助金等で様々なチームが来ているが、主催団体と市との関係はどのようになっているのか。

アイスホッケーの大学交流戦等も合宿補助金を出していると思うが、補助金以外にも市が援助等をしているのか。

▼榊田課長補佐

大学の交流戦に関しては、市が主催ではないので民間の宿泊業者が中心となり誘致、運営をされている。公式戦ではないので、チームから合宿補助金の申請があれば1チームにつき10万円を上限に1泊1,000円を助成している。

▽鈴木委員

釧路で野球の「タンチョウリーグ」というイベントを開催しているが、もともと亜細亜大学が幹事をやっていた。今回、亜細亜大学が参加できないため、釧路市が運営していると一般の方は思っていて、かなり問い合わせが来ているとのこと。

このイベントは市として補助は行っているが、運営は行っていないスタンス。中途半端な情報が流れてしまい、市が運営していると思われる。市は球場を貸しているのと、球場の予約を取っているだけ。今まで社会人野球のチームマネージャーが組合せをやっていて、はっきりとした主催者がいないらしい。

鹿児島で今盛り上がっている「おいどんカップ」も同じような運営形式で、自治体側は補助金をだすだけで、運営は行っていない。

このようなイベントに関しては、運営側に関わると人員の協力も必要となり、協力する場合、はっきりとスタンスを決めないと、今後曖昧になってしまうところがある。

▽藤岡委員

アイスホッケーの大学交流戦は宿泊事業者が事務局を担っており、基本的には全ての運営を行っている。

▼榊田課長補佐

先ほどの合宿補助金の説明の中で、旅行会社を中心となった民間主催のサッカー

一大会が8月に開催されており、そういう情報を早めにキャッチできれば、市で主催する氷上の甲子園と他の大会の日程調整といった部分ではサポートをしたいと思う。

鈴木委員の意見等も踏まえ、ある程度一定の線を引きつつ対応していきたい。

7 その他

8 閉会